

文化論集第 46 号  
2015年3月

## 消 息

### 渡辺洋一先生のご退職にあたって

渡辺洋一先生は、一昨年2013年3月をもって、早稲田大学商学部をご退職になられました。その後、2年が経過し、先生がいかにも私達を優しく導き、見守ってくださっていたかを実感しています。

ここでは、先生のご略歴と言うよりは、お人柄や学会でのご業績について語らせて置きたいと思います。と申しますのは、私は、私が文学部の学生時代から様々な点で先生にご指導いただいているからです。

渡辺先生に私が初めてお会いしたのは、先生が武蔵工業大学（現東京都市大学）から商学部にお見えになってすぐ、（もはや時効かと思いますが）先生が、その頃9号館の北側にあった研究室で、当時珍しかった北欧の焼酎 akvavit の試飲会を催された時でした。スチールのロッカーに寄りかかりながら、ちびちびと akvavit を飲み、笑顔で言語学談義を楽しんでいた先生のお姿が、今でも臉に蘇ります。その後、共通の恩師となったハンガリー語の大家で文学研究科に非常勤でお見えになられていた徳永康元先生のご退職にあたって、先生とご一緒に送別会を催し、そこでも先生の温かいお人柄に触れたものでした。

ご研究面では、先生は実に幅広い分野を対象にされています。特にアメリカ大衆文化については、20年に亘り、雑誌『時事英語研究』（研究社）に同じく商学部教授であったリチャード・マート先生と共著で映画シナリオ抄訳および「生きた英語表現」欄をご執筆され、その成果を発表されました。この連載は、話題の映画の数場面を紹介し、そこから選んだ重要表現、特にアメリカ英語らしい表現を別に解説するのですが、的確な場面の選択、また表現解説は、まさに先生の深いご研究に支えられたものと言えます。

同じ時期に研究社から『スーパートリビア事典—アメリカ大衆文化を知るための雑学情報百科』（研究社）の監修・翻訳・執筆をされました。実は、私もこの執筆に参加させていただきましたが、これは単なる翻訳に留まらず、すべての項目に亘り、事実関係

を確認し、日本で紹介されているか否かを検証したものです。そのため、毎週のように金曜の夕方に会議を持ち、完成まで5年以上の歳月がかかりました。このように、一点の不明も許さず、根気強い翻訳検証作業が続けられたことは、ただただ先生のご性格とお人柄によるものでした。事典は、ネットのない時代に、一般の辞書・事典では得られない大衆文化に関する貴重な情報を提供するものとなりました。

渡辺先生は、英米の広告とそこで使われる表現にも強い関心をお持ちです。これは、一般的表現から、キャッチフレーズ、また文字のフォントやレイアウトまで含めた、総合的言語使用の研究として特筆されるものだと思います。ご研究の手法でも、常に新しいもの、より良いものを求められ、特に広告研究には、今では常識的になっているコーパスを用いた研究手法を早くから採用されています。以前は広告英語のコーパスがほとんど存在しなかったので、先生は、自らそれを構築されました。これにも、先生のご研究に対するご姿勢が良く現れているものと思います。先生は、広告における言語使用を研究されるにあたって、広告そのものの研究も日本広告学会会員としてされています。

コーパスを利用したご研究は、もちろん英語の諸表現にも及ばれ、最近では類語研究にもこれを活用されていらっしゃると思います。先生は、ありとあらゆる場面での英語の使用、usageに興味を持たれ、その文化的背景や構造上の特色など、多岐にわたってご研究されているのです。先生の研究室やご自宅には膨大な、そして幅広い分野の書籍、特に多くのペーパーバックがあることに驚かされます。机上の空論、欧米の研究の引き写しではない、先生独自の資料とご経験がご研究の柱になっているのです。

そうした先生のご研究のもう一つの根幹をなすものは、社会言語学の理論、また伝統的手法によるインド・ヨーロッパ語のご研究ではないかと拝察しています。社会言語学は、言うまでもなくアメリカ大衆文化（映画、テレビ、ポップ・ミュージック）に生かされているように思われます。また、インド・ヨーロッパ語のご研究の一端としてアイルランド語を研究されています。英語に地理的に隣接する言語であり、また英語と同族ながらかなりかけ離れた存在のケルト語の研究は、先生の英語語法研究の奥深さに現れているのではないのでしょうか。

着実な研究者としての先生のお姿の対をなすものとして、先生の教師としてのそれがあります。先生が教えられた学生を私が教える、という事がままありましたが、渡辺先生のご授業に比べ、私の授業は緩すぎるらしく、どうも学生には物足りないものよう

でした。私自身は、そんなこともない、と思っているのですが、先生の緻密で真摯なご性格、また研究室に積まれているプリントの山などを拝見すると、ある意味納得せざるを得なかったのも事実です。

学会活動としては、先生は、日本実用英語学会の副会長を長く務められています。また、早稲田大学・ミシガン大学 科学技術英語検定試験出題・採点委員も務められ、ライティングを重視した先生のご授業での姿に重なるものが大いにあります。

ただし、長年お付き合いをいただいている先生のごことで、私が腑に落ちないことが一つだけあります。それは、先生のご趣味に関することです。日頃温厚な先生は、釣りをご趣味にされているということです。なるほど、と思います。が、これも長年続けられているテニスでは、実に積極的で、いわゆる「攻撃的テニス」の名手であられる、と伺いました。しかし、よく考えてみると、それらが両立していることこそが、渡辺先生の魅力的なお人柄を形成しているのでしょう。

渡辺先生、これからもどうぞ宜しくお願いください。

上に書きましたものに加え、比較的最近の先生のご業績等は、以下のものです。

#### 著書・翻訳書

1992年 翻訳『ペーパーバック大全』（晶文社）

1995年 英語教科書編注（共著） *Management: Success and Failure*（研究社）

1996年 翻訳・執筆（共著）『アメリカン・ポップ・フレーズ』（研究社）

1988年 監修・翻訳・執筆（共著）『スーパートリビア事典—アメリカ大衆文化を知るための雑学情報百科』（研究社）

2008年3月：（分担執筆）『*Get Your Message Across* 効果的なパラグラフの書き方』（南雲堂）

2009年3月（編集主幹・訳（共訳））『科学・ビジネス英語ハンドブック』（研究社）

#### 雑誌連載

1982年4月—1999年3月 映画シナリオ抄訳および「生きた英語表現」欄（共同執筆）

雑誌『時事英語研究』（研究社）

#### 研究発表

2010年5月 「最近の英語研究用コーパスとその活用法」日本実用英語学会月例会

於 早稲田大学

2012年1月 「カントリー音楽の歌詞から読むアメリカ大衆の心情」日本実用英語学会  
月例会, 於 早稲田大学

2012年9月 「Ms., Miss, Mrs., Mr. という敬称の実態」日本実用英語学会 第37回年次  
大会, 於 青森公立大学

2013年5月 「コーパスを利用した類義語研究の方法」日本実用英語学会月例会, 於 早  
稲田大学

2014年1月 「Who comes first, Betty or Jack? 一対語語順の多国語比較」日本実用英  
語学会月例会, 於 早稲田大学

#### 講演

2013年6月 「英文経済紙を読むための大衆文化の知識— The Economist を中心に一」  
甘楽経済同友会

#### セミナー講師

2013年7月, 2014年1月 セミナー講師 (篠田義明早稲田大学名誉教授と共同): 「英文  
書作成の基礎・実践講座」テクノセンター主催

#### 学会・研究会活動等

2001年-現在に至る 日本実用英語学会副会長

2005年-現在に至る 日本広告学会会員

2004年4月-2013年3月 早稲田大学総合研究機構ビジネス・テクニカル・コミュニ  
ケーション研究所長 (この間, 毎年学生向けテクニカル・ライティング・セミナー  
を開催, 研究員とともに講師を務める)

2013年4月-現在に至る 同研究所招聘研究員

2000年-現在に至る 日本テクニカルコミュニケーション協会理事および早稲田大学・  
ミシガン大学 科学技術英語検定試験 出題・採点委員

森田 彰